

IVR 学術用語集：IVR 術式名

日本 IVR 学会学術委員会の要請のもと、その下部組織として学術用語委員会が組織され、IVR 学術用語集の編集、発行を目標として活動して参りました。現在、IVR の進歩とともに IVR 治療手技が多岐にわたり、新たな手技、術式が続々と登場するなか、同一あるいは、類似した治療手技に重複した名称が与えられるなど、IVR 医療で用いられる学術用語には混乱が認められる現状があります。今回の IVR 学術用語集作成の目的は、この問題を解決しようとするもので、学術用語の統一を目指すものです。今回作成しました IVR 学術用語集では、数多く使用される学術用語の中、IVR 治療手技を表現する術式名に限定し、それぞれを科学的に正しくかつ誤解を招くことなく的確に表現する推奨用語を規定し掲載することとしました。治療手技を表現する学術用語に限定したのは、それらが医学用語の中で、日本 IVR 学会が主体となって規定すべきものであるという考えに基づいています。ただし、本委員会で提案された学術用語は、今後、関連学会へも意見を伺い、広く医学会で共有できるものを目指します。

推奨される学術用語の選定にあたっては、可能な限り、一定の言い表し方で IVR 治療手技、術式を表現できるよう規則（参考の項参照）を設け、それに従うように心がけました。規則は、最も一般的に使用されている用語が推奨されることになるよう考慮し規定しました。規則を規定した理由には、今後、新たに登場してくる治療手技に与える学術用語の混乱を防止する目的も含まれます。現在使用されている学術用語の使用頻度の検索には、PubMed 検索、Yahoo 検索、Google 検索を用いました。また、学術用語の中で、今回規定した規則に当てはまらないものが明らかに最も一般的に使用されている場合は、規則にとらわれず、繁用される用語を推奨用語としました。

今回の IVR 学術用語集では、領域別、手技のアプローチ別に章をもうけ、さらに、それぞれの章では、疾患別に IVR 治療手技を表す学術用語（術式名）を整理、掲載しました。これは、五十音順に掲載するよりも、想定する治療行為にふさわしい学術用語を検索するのに適しているであろうと考えられたためです。従って、同様の治療手技が複数の章に繰り返し登場することがあります。また、肝臓に対する経皮的経肝的な治療と経皮経血管的な治療が異なる章で記載されるように、同一病変に対する治療行為が複数の章にまたがって記載されている場合があります。さらに、掲載用語の検索を容易にする目的で、索引を設けま

した。IVR 学術用語集では、掲載された学術用語には、推奨される日本語用語、英語用語、英語略語を挙げ、さらに、同手技、術式を表現すると思われる類義語、同義語のうち、使用頻度の比較的高い日本語用語、英語用語を付記、掲載しました。その目的は、インターネット検索などの際の参考として使用いただくためであり、それらの使用を推奨するものではありません。本学術用語集編集の目的は、学術用語統一でありますので、類義語はあくまで参考目的の掲載であり、学術論文、学会発表などの学術活動に於いては、推奨用語を使用いただくことを強く推奨するものです。掲載された、すべての学術用語に対して、それらに相当する IVR 症例登録用の部位別術式名を付記いたしました。IVR 症例登録の際に活用いただければ幸いです。

参考：学術用語表現ルール

1. 誘導画像を用いた IVR については、“ガイドに用いた誘導画像 + 疾患名
あるいは標的臓器 + 治療行為”の順とする。また、ガイドに用いた誘導画像の表現は、“CT ガイド下”などと表現し、“CT 下”とはしない。

例) CT ガイド下肝膿瘍ドレナージ、CT ガイド下肺生検

2. 到達経路を含む用語については、“到達経路 + 疾患名 + 治療行為”
の順とする。また、到達経路の表現は、“経+（通過経路）+的”と表現し、
経由するものが複数ある場合には、“経+（通過物#1）+（通過物#2）
+的”とする。

例：経皮的、経皮経肝的、経皮経肝経胃的、など